教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 薬学科　　資格： 教授　　氏名： 大川　恭子

研究分野	研究内容のキーワード
臨床薬学・社会薬学・災害薬学・医療薬学	・医薬品の製剤等に関わるユニバーサルデザインの研究と臨床応用 ・災害時医療における薬剤師の関わり ・地域包括ケアシステムにおける薬局、薬剤師の役割
学位	最終学歴
薬科学	武庫川女子大学薬学部 大学院　博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.感染制御とがん医療	2020年4月～現在	「感染制御とがん医療」という観点からチーム医療の一員として薬剤師が責任を果たすための知識を習得する。実現場での臨床症例を視覚的にも見せながら、共に理解し他職種と協働のもと薬剤師としての役割を理解し、実行できるよう指導する。 【在宅における　がん医療＆感染制御】 (１)感染領域・がん領域における在宅ケア (２)在宅ケアにおける感染領域、がん領域の症例検討
2.地域医療における薬剤師	2019年4月～現在	地域医療において現在、最前線で活躍されておられる先生方をお招きし、オムニバス形式で授業を展開。それぞれの講師から病院や薬局における地域での薬剤師の役割を具体的にわかりやすく紹介。ちょうど実務実習中の学年とあり、臨床現場と授業での話を照らし合わせて将来の自分自身の薬剤師としての在り方も考える機会とする。 「地域における災害時対応」の授業では、被災地での救護活動の自身の経験を話すと共に、学生と『災害時の避難所設営訓練』をカードゲーム方式で実施。様々な避難者が押し寄せてくる避難所の設営について、リアルな具体例と共に医療従事者としての観点からも設営・運営にあたっての問題点を学生同士が互いに考え、知恵を出し合いながら授業展開を行う。
3.薬剤師のリスクマネジメント	2019年4月～現在	共同担当において、主に、薬局におけるリスクマネジメントについて具体例を挙げて学生と共に様々な事例を考える。地域の薬局においては『街の科学者』としての薬剤師の果たす役割、薬物乱用防止、環境汚染や化学物質、日常生活における公衆衛生上の問題、在宅医療におけるリスクマネジメントなど様々な観点から学生と共に『薬局におけるリスクマネジメント』について掘り下げて授業を実施。もちろん、薬局における調剤過誤対策などに最新の機器の活用や工夫や具体的対策法についても理解し考えてもらう。 また、特に「災害大国」ともいえる我が国において平時からの災害対策（BCPも含む）並びに災害時のリスクマネジメントの在り方についても共に考える。 また近年、薬剤師のセルフメディケーション・セルフケアへの関わりにおいて考えられるリスクの具体例や重要なポイント、また、健康食品やサプリメントの区分の理解や医薬品との併用時のリスクについて、薬剤師として正しい知識を持って指導にあたることの大切さを教える。 近年、様々な観点から「薬物乱用」が社会問題化している現状より、 将来、薬剤師として、薬の専門家としてどのように考え、また役割を果たしていくべきかを共に考える。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
4.薬剤師のための生涯教育	2019年4月～現在	世界各国の薬剤師の現状や社会保障・医療保険制度を知った上で、日本におけるこれからの薬剤師の生涯教育の在り方を学生と共にSGDなどを交え考える。 また、わが国でも今改めて『薬剤師の生涯教育』の在り方が問われている。薬剤師になったあと、社会的役割を果たしていくために必要不可欠な生涯学習を続けていくための様々なツールや方法も紹介し、 また、専門・認定薬剤師を目指すなど、薬剤師としてのキャリア形成についても紹介し、共に考える。
5.臨床薬学基本実習　Ⅰ・Ⅱ	2019年4月～現在	実務家教員として長年の実務経験を活かし多角的に指導。特に臨床現場でのタイムリーな話題も提供しつつ、自身の施設において薬学実習生を受け入れた経験より 実務実習に行った際の心構えなども合わせて指導。 導入講義では「災害時医療と薬剤師」「在宅医療・介護への参画」「地域におけるチーム医療」等を担当。 特に臨床現場での患者とのコミュニケーションの取り方の大切さや地域の薬局における薬剤師の役割や活動について、経験をもとに指導。
6.医療倫理学（ヒューマニズム論 Ⅰ）	2019年～2024年2025年9月	医療の担い手として個人の尊厳の保持と生命を尊重する姿勢を崩すことなく、薬剤師が果たすべき役割を理解し、ファーマシューティカルケアを実践する能力を身に付ける。 SGDを取り入れた授業で、実際の病院や薬局で起こりうる様々な事例を示し、患者・患者の家族・生活者の視点に立ち医療人としての心構えや倫理規範を理解し、学ぶ。
7.「在宅医療推進教育プログラム(HOPE)」への参画	2019年～2024年	日本薬学会関西支部主催の「在宅医療推進プログラム(HOPE)」は、実務実習前に学生が在宅医療の臨床の場へ協力薬局の指導薬剤師と共に直接出向き、実現場における医療・介護連携の中での薬剤師の役割や課題を学ぶことによって、将来、地域医療の中核を担う学生を育成することを目的として薬局と大学が連携して実施するものである。 プログラム参加前には、学内で事前講義を実施。在宅医療や医療並びに介護保険制度やそれぞれの法律の下に実施されるサービスの仕組みなどについて基礎知識を伝授し送り出す。 また、受け入れ薬局では、更に実現場に則した在宅医療における薬剤師の調剤上の工夫や訪問に関わる注意点、その他を学んでから現場に向かう。帰局後は、体験をもとに薬剤師と共に意見交換をしたり、質疑応答をし、学びのまとめを行い終了する。実施日によっては、医師との訪問診療に同行したり、施設在宅で複数の患者対応を経験したりもする。 武庫川女子大学薬学部から2020年は６名の学生。2021年度はコロナ禍２名の学生。2023年は６名。2024年は３年生５名と４年生５名の計10名の学生が参加した。 参加学生は実施後、作成した報告書をもとに日本薬学会関西支部大会・総会で「口頭発表」・「ポスター発表」を行い、学会発表をもって一連のプログラムが修了する。 2022年度・2023年度　日本薬学会関西支部大会で学会

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		発表を行った学生がそれぞれ２年連続で「優秀ポスター発表賞」を受賞。 修了学生の卒業後の活躍に期待し、毎年、指導を継続している。 本学においても年々学生の関心が高まり参加希望者が増えている。 大学と協力薬局との連携により成り立つプログラムではあるが、今後本学においても、実務実習の前または後のアドバンスト教育の一環として参加学生の実績評価と共に積極的な実施に協力したい。
8.早期体験学習　Ⅰ	2019年～2023年	将来「薬剤師」を目指す薬学に入学したばかりの学生が実社会における薬剤師の活躍の場を見聞また体験することにより、しっかりとした将来展望を描き、目標をもって６年間の学びに繋げられるように実施・指導。 体験学習後、SGDを実施し学年全体で内容を共有し、全体発表会並びに冊子作成を成果物とした。 （製薬企業・研究所・保健所・医療福祉施設・介護施設・血液センター・病院・薬局等に協力を得た）
2 作成した教科書、教材		
1.薬学生・薬剤師のためのユニバーサルデザイン入門	2024年12月31日 【化学同人】	薬剤師の立場から実務・構造上の視点・患者の多様性（ダイバーシティ）への配慮に関する助言を行った。
2.『スタンダード薬学シリーズⅡ７』 ー臨床薬学ー	2018年6月25日 【東京化学同人】	チーム医療および地域の保健・医療・福祉への参画 ・薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠し、 内容を学生にわかりやすく盛り込んだ教科書。 →執筆担当：第10章「災害医療と薬剤師」 ・災害医療概説 ・災害時における地域医療体制と薬剤師の役割 ・防災計画に基づく事業継続計画(BCP)
3.『薬学生のための病院・薬局実務実習の手引き』	2016年3月31日【じほう】	薬学生の実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠し、その方略(LS)ごとに要点や資料が整理されている。学生のテキストとしてまた指導薬剤師の実習テキストとして活用しやすい内容。 →担当執筆：「かかりつけ薬局・薬剤師」 「一般用医薬品」 「副作用情報の管理と報告」
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.日本薬剤師会　生涯学習委員会委員　JPALS小委員会	2020年9月～現在	・日本薬剤師会 JPALS認定薬剤師制度 受験資格審査小委員会メンバー
2.日本災害医療薬剤師学会　＜副会長として＞	2018年4月～現在	「日本災害医療薬剤師」の認定養成研修を企画・実行。 2018年４月から理事（研修担当）：講師として講演・指導。 2022年４月より学会　副会長 薬学教育において薬剤師の災害時医療への関わりについて検討。
3.日本災害医学会　薬剤師研修コースのインストラクターとして災害支援薬剤師の養成	2015年～	・日本災害医学会の薬剤師研修コース(PhDLS)を 兵庫県内で開催。 研修企画と運営、災害支援薬剤師養成コースの インストラクターとして指導にあたった。
4.武庫川女子大学薬学部　教員として	2011年4月～2025年現在	2011年4月1日～2018年3月31日　薬学部 非常勤講師 2019年4月1日～2025年　現在　　薬学部　教授

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
5.薬学生実務実習指導教員として	2010年10月より2018年3月	・実務実習指導薬剤師の経験をもとに兵庫県下、 各薬科大学において実務実習指導教員を務めた。
6.職能団体での実績：日本薬剤師会　兵庫県薬剤師会 地域薬剤師会	1990年7月～2019年3月	◎日本薬剤師会　：代議員（1996～2016） 分業対策本部委員・介護保険対策委員 生涯教育委員・災害対策委員等各委員歴任 ◎兵庫県薬剤師会：常務理事・理事（1992～2018） ◎神戸市薬剤師会：常務理事・理事（1998～2014） ◎長田区薬剤師会：会長・副会長・理事（2002～2014）
7.実務家教員として	1982年～現在	・調剤実務経験40年以上。 →薬局・病院等での調剤経験を活かし 平成２年　保険薬局を開局(現在に至る) ・自身の薬局においても薬学実習生を受け入れ、 指導薬剤師として指導実績を積んだ。
4 その他		
1.神戸須磨東高校にて	2015年2月10日	・１年生　総合学習特別授業を実施。 →「薬剤師の仕事と社会的役割について」
2.学校薬剤師(神戸市) 小学校（１校）・認定こども園（２園）	2002年8月～2019年3月31日	・担当小学校や認定こども園において学校・園の 「学校薬剤師」を15年以上務めた。 生徒を対象に薬物乱用防止関係の授業を実施。また環境衛生・公衆衛生の指導・検査の実施、指導をした。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.公認スポーツファーマシスト	2019年～現在	
2.日本災害医療薬剤師学会認定　災害医療支援薬剤師	2019年～現在	
3.認知症サポーター(兵庫県)	2017年～現在	
4.JPEC(日本薬剤師研修センター)認定薬剤師	2017年～現在	
5.日本災害医学会　災害医療認定薬剤師	2017年～現在	
6.JPALSクリニカルラダー　レベル５	2015年～現在	
7.PhDLS(日本災害医学会)研修指導インストラクター	2015年～現在	
8.認定実務実習指導薬剤師	2010年	
9.兵庫県薬剤師会　禁煙指導認定薬剤師	2005年～現在	
10.薬剤師免許(保険薬剤師資格有)		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.西宮市防災会議委員	2025年4月～2027年3月	西宮市で、災害対策基本法及び西宮市防災会議条例の規定により西宮市防災会議を設置し、地域防災計画の作成及び実施の推進、市の防災に関する重要事項の審議を行う。
2.兵庫県薬事審議会委員	2024年2月～2026年2月	兵庫県において薬事に関する重要事項を調査審議し、薬務行政の円滑な推進を図るため審議する。
3.兵庫県災害・救急医療システム協議会委員	2014年6月～2018年6月	兵庫県薬剤師会を代表して様々な意見を提言した。
4.臨床現場での指導実績をもとに大学で実務指導	2010年～	兵庫県下４薬科大学それぞれにおいて実務指導を実施。
5.介護認定審査会委員(神戸市)	2009年4月～2020年3月	基礎職の薬剤師・介護支援専門員の資格をベースに介護認定審査会に出席。認定審査にあたった。
6.「兵庫県災害医療センター」設立メンバー （兵庫県薬剤師会代表）	2002年～2006年	兵庫県災害医療センター設立にあたりに職能的立場から意見を述べた。
7.兵庫県国保連合会介護給付部会歴任	2002年～2006年	様々な事例に対して意見を述べた。
8.医療経済研究機構における共同研究発表	1996年3月	『21世紀に期待される薬剤師の役割』

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		--薬剤費への提言--
4 その他		
1.・平成30年度　薬事功労者【厚生労働大臣表彰】	2018年10月	
2.・兵庫県学校薬剤師会【会長表彰】	2013年8月	
3.・兵庫県薬事功労者表彰【知事表彰】	2012年10月	
4.・兵庫県自治賞	2011年12月	
5.・兵庫県薬事協会【会長表彰】	1995年7月	
6.薬剤師会を通じて社会貢献(執行役員歴20年以上)		【日本薬剤師会】　：代議員・各種委員歴任 【兵庫県薬剤師会】：常務理事・理事等歴任（20年） 薬学教育,地域医療,医療保険,災害-公衆衛生対策 【神戸市長田区薬剤師会・神戸市薬剤師会】 ・会長 他 歴任

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.スタンダード薬学シリーズⅡ７『臨床薬学』Ⅲ：チーム医療及び地域の保健・医療・福祉への参画	共	2018年6月	東京化学同人	・薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠 学習者主体の新しいスタイルの書。 災害時の薬剤師支援の経験をもとに「薬剤師の災害時の支援活動」についてわかりやすく解説しキーワード等の説明や「災害医療に関する医療従事者としての共通認識」の重要性、国の様々な災害医療体制や法的整備についても触れた。 ・執筆担当：第10章　「災害医療と薬剤師」
2.服薬指導ハンドブック	共	1994年3月	医薬ジャーナル社	・繁用処方薬の服薬指導に役立つ薬効別服薬指導の要点をまとめたもの。 患者が納得のいく服薬指導を行うためには、患者が理解しやすいように適切に伝える必要がある。 病院外来窓口や薬局に置いて活用しやすい１冊である。 ・執筆担当：産婦人科用剤・点眼薬・外皮用剤 ・共著者：奥村勝彦・田部和久・岩城　徹他
2 学位論文				
1.The surveillance of adherence for hormone replacement therapy in female	単	2019年02月	武庫川女子大学	
3 学術論文				
1.Evaluation of Various Containers Based on Tactile Pressure Change During Eye-Drop Operation and Squeeze Force and Usability	共	2025年4月	日本医療薬学会	様々な形態（形状・硬さほか）の点眼剤があり、銘柄ごとにそれらが異なる。使用者の視点から点眼薬１滴を滴下する際に必要とされる「押し出す力（スクイズ力）」が、患者（使用者）の使用感に及ぼす影響について調査、研究を行った。 （臨床薬学教育センター　メンバー）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2.The effectiveness of chemical degradation for antineopiastic drugs in the short interval reaction using diluted sodium hypochloritee	共	2024年4月27日	Journal of Oncology Pharmacy Practice	Hama Koji,Kuwahara Akiko,Ohkawa Kyoko,Yauchi Yoshihiko, Tsujimoto Tsutomu
3.Preparation and characterization of orally fast disintegrating minitablets(OFDMT) containing diphenhydramine hydrochloride and aspartic acid or glutamic acid as umami amino acid.	共	2021年12月	Pharmacy & Pharmacology, 2021,12,p283-p292.	Kyoko Ohkawa,Haruka Nishikawa,Honami Kojima,Takayuki Okuno, Rio Uno,Mitako Yoshida and Takahiro Uchida
4.New Diet Therapy Vol.32 No.3	単	2016年3月	日本臨床栄養協会	『「健康サポート薬局」に求められる機能と薬剤師の関わり』 ＜査読付き＞ 「健康サポート薬局」創設の経緯と国の制度上の位置づけや概要について詳しく解説。また、現行制度の中で期待される部分や地域包括ケアシステムの中での運用について検討。今後、地域の中で「薬局・薬剤師」がどのような役割を果たすべきかをその具体例とともに提言。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.西宮市防災リーダーの会　講師		2025年2月20日	『災害時における要配慮者対応の現状と課題』	西宮市防災リーダーの方々を対象に高齢化社会における災害弱者の観点から様々な要支援者の立場を配慮した災害時支援の在り方をSGD形式で議論・発表・意見交換した。
2.『保険診療と審査を考えるフォーラム～震災への対応と将来に向けて～』パネリスト		2017年9月	社会保険診療報酬支払基金フォーラム （兵庫県　神戸市）	『保険診療と審査を考えるフォーラム』パネリスト 医師・薬剤師・大学教授・健康保険組合代表・社会保険支払基金代表等がそれぞれの立場で災害時の現状と保険診療のあり方について課題・意見交換をし討論を行った。薬剤師会を代表して災害時の保険診療のあり方について述べた。
3.『研修・訓練から実災害へ～どのように実災害対応へ繋げるか～』：シンポジスト		2017年2月	日本災害医療薬剤師学会 学術大会 （静岡県）	シンポジストとして登壇。兵庫県薬剤師会での災害支援体制について、また、「災害支援薬剤師」・「災害薬事コーディネーター」の養成に関わる研修・訓練について紹介した。医療チームとしての支援が中心となるため、平時からの連携体制の構築の重要性について述べた。
4.『薬学生と考える薬剤師の災害支援』座長		2011年8月	近畿薬剤師学術大会 （兵庫県神戸市）	「阪神・淡路大震災と東日本大震災から学ぶ災害医療」鵜飼　卓氏の基調講演後、兵庫県下５大学の代表薬学生とSGDを実施。各学生代表者による発表をもって今後のあり方について共に議論。
２．学会発表				
1.希釈次亜塩素酸ナトリウムによる短時間反応における抗悪性腫瘍薬の化学的分解の有効性	共	2024年11月2日	第34回　日本医療薬学会年会	濱　宏仁、桒原　晶子、大川　恭子、田内　義彦、辻本　勉
2.ジヒドロコデイン含有医薬品の適正販売数量と 濫用防止対策についての検討	共	2024年10月5日	第74回　日本薬剤師会関西支部総会・大会	定広 美希, 大川 恭子 ,桒原 晶子 , 田内 義彦 ,辻本 勉 ,濱 宏仁

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
3.アセチルシステインがインスリンアスパルトに及ぼす影響	共	2024年10月5日	第12回　日本くすりと糖尿病学会学術集会	中川 涼,植村有加里,濱宏仁,大川恭子,田内義彦,桒原晶子,辻本勉
4.アトピー性皮膚炎の痒みに影響を与える因子の調査分析	共	2023年3月26日	日本薬学会134年会（札幌）	アトピー性皮膚炎において増悪・寛解を繰り返す主病変において「掻痒」が及ぼす影響は大きく、罹患者において身体的にも精神的にも影響を与える因子として外すことはできない。個々の罹患者に対し、日常生活のどのような場面でどのような変化があるか。また、それに伴う環境因子の影響を探るべく調査研究を行った。
5.味覚センサによるジフェンヒドラミン塩酸塩・NSAIDs配合時の苦味強度予測	共	2022年10月8日	日本薬学会関西支部総会・大会	近年、一般用医薬品においても数種の薬効成分を持つ「配合剤」が多く上市されている。薬効成分の特性としての「苦味」をターゲットに代表される医薬品と配合が考えられる医薬品との苦味マスキングの可能性を様々な機器や分析法を用いて測定し、その原理を考察した。
6.新型コロナワクチン接種への薬剤師の関わりから新たな薬学教育・薬剤師教育への提言	共	2022年3月26日	日本薬学会第142年会（名古屋）	新型コロナ感染症拡大防止のため2021年5月より国民に対してワクチン接種が本格的に実施された。今回のワクチンは、保管管理面や接種にあたり複雑な薬剤調整が必要であった。薬剤師は医薬品を取り扱う専門家として様々な面で協力、貢献が求められた。日本の現法律下で薬剤師が行える行為には制限があったが、諸外国での薬剤師のコロナ禍での地域における貢献範囲は多様で、今後、このような緊急事態発生時にも向けて我が国においても、改めて今後の薬学教育の在り方、薬剤師の生涯教育の在り方を考える機会としたく提言を行った。
7.「薬学教育における地域連携への取り組み」	共	2020年3月28日	日本薬学会第140年会（京都）	超高齢化社会を迎える中、大学周辺地域の高齢化率は他に例を見ない値を示す。大学の地域貢献の一環として2013年から学生と共に地域連携活動として健康相談、アドバイスに関わりを続けてきた集大成を発表。
8.第25回日本災害医学会「薬学教育における災害教育の現状と課題」	単	2020年2月	日本災害医学会学術集会（兵庫県神戸市）	「薬学教育における災害教育の現状と課題」 ・モデル・コアカリキュラムにおける薬剤師の災害時支援への関わりについて大学や実現場での教育の在り方について現状から今後に向けての課題を提言。
9.「Investigation of pharmacist activities and usefulness of Mobile Pharmacy in desaster releif」	単	2018年10月	APCDM in JAPAN（国際学会）ー兵庫県神戸市ー	日本における近年の災害発生状況とともに日本の薬剤師の災害支援への関わりの変遷を伝え、災害現場でのモバイルファーマシーの有用性についてその特徴とともに伝えた。また、医療者の今後の災害支援への取り組みについても提言した。
10.「大規模災害時　民間船舶を活用した内閣府の医療支援実証」における薬剤師活動の検証	共	2017年10月	日本薬剤師会学術大会（東京）	間近に迫る大規模地震(南海トラフ地震など)を想定し、内閣府等を中心に国の防災対策が進められている。兵庫県においては阪神・淡路大震災の経験をもとに早くから船舶を活用した災害支援のあり方について検討を重ねていた。今回、国の大規模な実証訓練が兵庫県で行われることとなり、我々薬剤師がその中のチームの一員として、医薬品の供給はじめ被災者支援にどのようにかかわるべきか？検証を行い、その結果の報告と今後への提言を行った。
11.「災害薬事コーディネーターの養成」	共	2017年2月	日本災害医療薬剤師学会（岐阜県）	兵庫県薬剤師会において「災害薬事コーディネーター」創設にみけて、その役割や考え方、養成の方向性について紹介。全国での取組状況調査結果や今後の課題について提起。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
12.「災害時におけるモバイルファーマシーの有用性の検討」	共	2017年2月	日本災害医学会学術集会（愛知県）	2016.4月の熊本地震では、薬剤師支援活動において大分県薬剤師会所有のMP(モバイルファーマシー)が、我々薬剤師の活動拠点として活躍した。被災地で医療支援活動を行う者にとっても、被災者にとっても、ランドマーク的な役割も果たし注目を浴びた。これらの経験から支援活動にあたった薬剤師・医師等にアンケート調査を行うとともに今後へ向けての課題や方向性の指針を探り、その結果について発表した。
13.「災害医療における支援薬剤師の養成」ー兵庫県薬剤師会の取り組みー	共	2016年10月	日本薬剤師会学術大会（愛知県）	兵庫県薬剤師会において「災害支援薬剤師」制度を創設し、その養成に務めた経緯と研修・訓練体制などを発表するとともに今後の取組みについて示した
14.「災害時のチーム医療について考える」	共	2016年10月	日本薬剤師会学術大会（愛知県）	2016.4月に発生した熊本地震においては最も被災の激しかった「益城町」において我々薬剤師会ちーむは、「JMAT兵庫」医療チームの一員として他の医療従事者とともに支援活動を行った。全国から支援に訪れた様々な職種の支援者とともに初対面で瞬時にチームビルトを行い、共に活動する重要性と平時からの取り組み・心構えについて実体験をもとに報告・提言。
15.「災害時の糖尿病患者への薬剤師支援」	共	2016年10月	くすりと糖尿病学会（兵庫県）	2016年4月の熊本地震災害支援の経験から被災地における糖尿病患者への医療支援のあり方について事例報告と今後へ向けての対応・準備に関して提起。
16.「災害に備えてー地域コミュニテイへの関わりー」	単	2013年9月	日本薬剤師会学術大会（大阪府）	災害時、要援護者に関する神戸市の条例に合わせた地域三師会・地元協議会での取組みについて、これまでの事例や経験をまとめて紹介・提言。
17.「災害時　神戸市要援護者支援に関する三師会の取り組み」		2010年6月	日本プライマリケア学会近畿地方会(神戸市)	神戸市条例に基づく地域三師会の災害時の連携のあり方について、これまでの事例や実績をまとめて紹介・今後への提言を行った。
18.保険薬局および病院・診療所における薬学生実務実習の実態調査	共	2006年1月10日	日本医療薬学会	We conducted a survey on the practical training of pharmacy students in 47 community pharmacies and 76 hospital pharmacies in Hyogo Prefecture. Items surveyed included the acceptance system for pharmacy students, practical training curriculum, problems and difficulties. In many community pharmacies and hospital pharmacies, instruction in practical training was recognized as worthwhile despite the workload involved.
19.「介護保険　居宅療養管理指導の手引き」	単	2005年10月	日本薬剤師会学術大会（広島県）	薬剤師が介護保険下で行う居宅療養管理指導(在宅患者訪問薬剤管理指導)の実施推進のため、より多くの薬局・薬剤師が取り組みやすくするために、活動の開始にあたっての申請の手続きや書類作成、活用法などをわかりやすくまとめた手引きを作成し、紹介した。
20.「新薬情報入手に関するアンケート調査」	共	2004年9月	日本医療薬学会	病院・薬局での新薬情報の入手に関するアンケートを実施。大学等の教育機関とも連携し、データベース等も活用した新しい時代に向けての臨床現場における情報収集・共有の在り方について考える。
21.「神戸薬学ネットワークの取り組み」	共	2004年9月	日本医療薬学会（千葉県）	病院薬剤師・薬局薬剤師・大学(薬学部)教員が連携して勉強会などをともに企画し相互の情報交換・連携体制の基盤をつくる目的で「神戸薬学ネットワーク」を立ち上げた。その目的と活動について紹介した。
22.「薬剤師がつくる薬物治療」ー薬・薬・学連携ー	共	2004年9月	日本医療薬学会（千葉県）	新薬情報入手に関する病院・薬局等でのアンケート調査を実施するとともに検証を行い、これを基盤にして今後へ向けての連携のあり方について発表。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
３．総説				
1.『21世紀に期待される薬剤師の役割』ー薬剤費への提言ー	共	1996年3月	医療経済研究機構	水野　睦郎・山本　信夫　他
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.教育研究社会連携活動　　報告・発表会		2023年11月	武庫川女子大学地域連携協議会	発表演題「浜甲子園地域住民のヘルスケアプロジェクト」ー健康で住みよい街をめざしてー
2.市民対象講座 インターカレッジ西宮		2023年3月9日	西宮市大学交流センター	新しい街づくりにおけるヘルスケアプロジェクト　ー　西宮市でのシチズンシップの芽生え　ー
3.地域活動報告	単	2019年11月	第４回地域連携協議会（武庫川女子大学　教育研究社会連携推進室主催）	地域連携から学ぶ　これからの　－薬剤師のあるべき姿－　薬学部のある浜甲子園地域で新しい時代の新しい街づくりが進む中、大学が地域と連携して薬学生や薬剤師と共に住民の健康づくりや健康増進に寄与することにより、これからの-薬剤師の地域におけるあるべき姿-を考え、地域貢献を目指す。
4.調査報告		2006年1月	医療薬学会誌	『保険薬局及び病院・診療所における学生実習の実態調査』
5.学術雑誌掲載		2004年6月	調剤と情報　６月号	『介護保険　居宅療養管理指導の手引き』を作成して
6.STUDY　REPORT		2001年9月	総合ケア11月号	特集『在宅高齢者とくすり』ーくすりの飲み合わせー
7.研究発表		1996年3月	医療経済研究機構	『21世紀に期待される薬剤師の役割』ー薬剤費への提言ー
8.学術雑誌掲載		1995年12月	ファルマシア	『薬剤師災害ボランティアを薬学教育にどう活かすか』ー阪神・淡路大震災の経験からー
9.会報掲載		1995年12月	兵庫県薬剤師会兵薬界12月号	『阪神・淡路大震災の記録』
６．研究費の取得状況				
1.2024年度　『地域を対象とした連携推進支援事業』継続事業	単	2024年6月1日～2025年5月31日	武庫川女子大学 社会連携教育研究センター	西宮市甲子園・鳴尾地域における健康維持・増進プロジェクト。今年度は特にフレイル対策に力を入れて、身体的・精神的フレイルの予防プログラムを地域自治会並びに行政とも連携して実施していく。新型コロナの影響を受け『高齢者の通いの場』の減少に伴い、家にこもりがちの方も増えているため、様々な機会を設け、心身のフレイル対策を行う。特に高齢者の栄養指導の一環として「健康ランチ会」を通じてバランスよい「食」の大切さを伝え、また、「脳の活性化」を意識し、脳体力トレーニングの実際を体験していただいたり、同時に体組成測定やフレイルチェック、くすり健康講座を実施。地域住民のニーズを探りながら市内各地で実施・啓発活動を行っていく予定。
2.2023年度　『地域を対象とした連携推進支援事業』	単	2023年6月～2024年3月	武庫川女子大学　教育研究社会連携推進室	『浜甲子園ヘルスケアプロジェクト』ー健康で住みやすい街を目指してー　地域の高齢者のみならず子どもを含む若い世代の住民の健康維持・増進への貢献を目指した活動を行う。
3.産学共同研究事業『コロナ禍における地域高齢者の脳活バランサーによる認知症予防トライアル』	単	2020年9月1日～	2020(令和2年度)公益社団法人ひょうご科学技術協会企業大学院連携研究事業助成	新型コロナウィルス感染症パンデミック収束後に向けて、浜甲子園地域における「フレイル予防・対策」のトライアルを県内企業並びに西宮市薬剤師会とも協力の上、実施した。特に、コロナ禍、外出自粛を余儀なくされた高齢者の身体的フレイルや認知機能フレイルの予防にスポットをあて企業が開発したタブレット端末を用いてさらなる有効性の開発を目指し、実証研究を行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
4.「コロナ禍における地域高齢者の社会的・精神的フレイルへの影響調査とフレイル予防の検証トライアル」	単	2020年4月1日～	武庫川女子大学薬学部 学部長裁量研究費	我が国は、超高齢化社会を迎え、政府においても2019年、改めて厚生労働省より「フレイル（高齢者の虚弱）」は、健康寿命の延伸を図るうえで重要な健康課題と位置づけ、各自治体・地域における『フレイル予防・対策』の具体化を打ち出した。そのような中、全世界を巻き込む、新型コロナ感染症パンデミックが発生。さらなる「フレイル」危機が到来。身体的・社会的・精神的フレイル対策に向けたトライアルを開始した。
5.「健康推進モデル地区づくりへの貢献と臨床的展開」　～未来の薬剤師のために～（地域貢献事業）	単	2020年4月1日～	武庫川女子大学薬学部 特別研究事業 （地域貢献事業）	武庫川女子大学薬学部と西宮市薬剤師会は2020年度、連携協定を締結。 今後、大学における地域との連携推進、地域貢献を目指し協働し活動を展開していく。高齢化が深刻な問題となっている大学周辺地域をモデル地区とし、将来、医療従事者としての薬剤師を目指す薬学生と共に「薬・健康講座」等の実施や健康チェック、アドバイスを行うことにより、地域への関わりや社会問題を理解し、新しい時代に向けた薬剤師の養成にも繋げたい。また、国のすすめる地域包括ケアシステム等への理解も深め、医療のみならず介護・福祉・保健など様々な視点を養う機会ともしていく。
6.文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」(牽引型)(2019-2024年)	単	2020年1月～3月	関西圏女子大学 ダイバーシティ推進協議会 「異分野交流共同研究スタートアップ支援」	武庫川女子大学薬学部と地域薬剤師会・地域行政が協力体制を組み、地域における高齢者健康モデルの考案にあたり、連携・協力いただける企業との共同研究の推進準備を実施。
7.2019年度『地域を対象とした連携推進支援事業』	単	2019年6月～2020.3月	『地域連携から学ぶこれからの-薬剤師のあるべき姿-』	薬学部のある浜甲子園地域で新しい時代の新しい街づくりが進む中、大学が地域と連携して薬学生や地域の薬剤師と共に住民の健康づくりや健康増進に寄与することにより、これからの-薬剤師の地域におけるあるべき姿-を考え、地域貢献を目指す目的で実施

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2025年4月1日～2027年3月31日	西宮市防災会議委員
2.2024年2月3日～2026年2月2日	兵庫県薬事審議会委員
3.2023年～	日本災害医学会（災害医療認定薬剤師）（PhDLSインストラクター）
4.2022年4月～現在	日本災害医療薬剤師学会（副会長・理事）
5.2021年5月～2022年3月	日本私立薬科大学協会（6年制薬学教育制度　調査検討委員会　委員）
6.2020年9月～現在	日本薬剤師会（生涯学習委員会　委員）
7.2020年4月～現在	日本薬学会（関西支部　委員）（HOPE　WGメンバー）
8.現在	HuMA （災害人道医療支援）　　会員
9.現在	医療経済研究機構　　会員
10.現在	日本医療薬学会　　会員